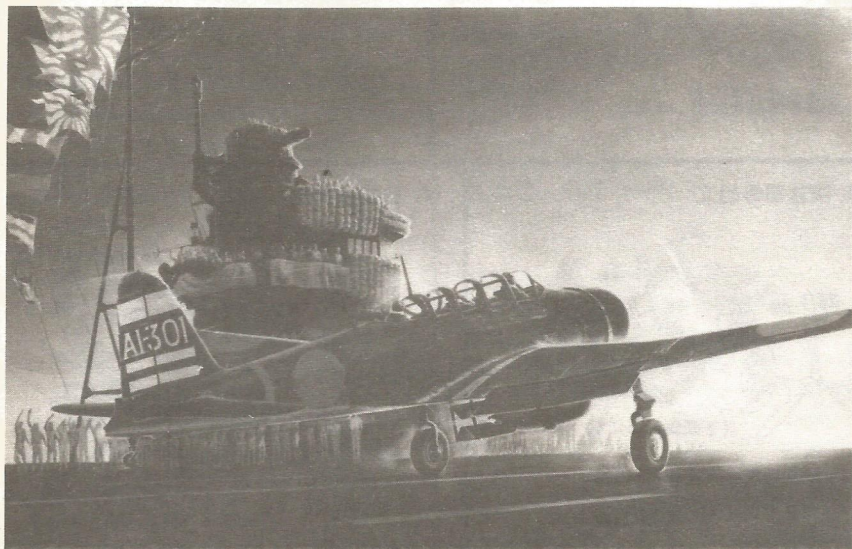




中島 97式 3号艦上攻撃機

1/72

組立説明書



「解 説」

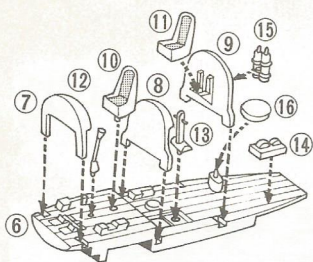
日本海軍が航空機の単葉近代化をはかり、9試(96艦戦、96中攻)の大成功により、艦上攻撃機の近代化に着手、昭和10年単葉形式の試作を中島、三菱の両社に発注した。中島は10試艦攻に若い新鋭スタッフを当らせ、随所に新機軸をもちこんだ。引込み脚、高揚力装置(ファウラーフラップ、2号機以降スロテッドフラップに改装)、主翼折たみ機構、セミインテグラルタンク等々、日本最初のものをいれ、当時としては世界的にも技術的最先端を行く機体を作りあげた。原型は昭和11年12月末に完成、12年11月に制式採用になり97式艦上攻撃機となった。97式1号艦攻は13年4月以降量産機が生産され、同年8月台湾の高雄空の20機が中国大陸に進出、南支方面の上陸作戦に、長航続力、大搭載量、短離着陸性能などに優秀性を発揮し活躍した。14年12月にエンジンを中島「光」3型(空冷星形9気筒710HP)から中島「栄」11型(空冷二重星形14気筒910HP)に改装した97式3号(12型)が完成し、海軍の主力艦攻となった。

本機の晴れ舞台はいまでもなく昭和16年12月8日の開戦へき頭、機動部隊による真珠湾攻撃です。艦攻本来の姿になって800kg雷魚の雷撃隊(40機)、800kg爆弾の水平爆撃隊(103機)の97艦攻は、99艦爆(急降下爆撃隊)と共に一瞬の内に米太平洋艦隊戦艦群をほうむる大戦果をあげ、全世界にその名を銘記させた。その後、機動部隊の主力として戦った本機も、ミッドウェー海戦で多数の本機と共に優秀な搭乗員を失った。そして18年11月のブーゲンビル沖海戦で新鋭艦攻「天山」の登場と共に、除々に第一線の地位を交替してゆき、その後電探装備機の夜間雷撃などに使用されたが、鈍速のため消耗率も大きく、大戦後期は他機とともに特攻作戦に使用された。各型あわせて中島で669機、愛知、広工廠でも量産され総数約1250機生産された。アメリカのつけたコードネームは「KATE」である。

株式会社 マニ ア

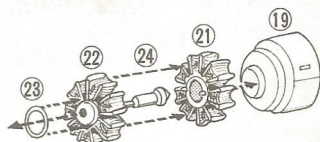
東京都杉並区本天沼 2-13-2
TEL 東京 (03) (396) 6658

(1) コックピット組立



⑥に各部品を接着します。

(2) エンジン組立

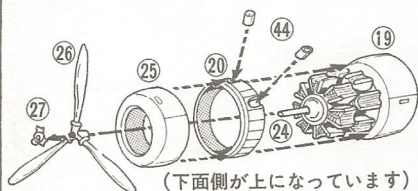


⑳を㉒に接着します。

㉑と㉒の間に㉔をはめこみます。

㉑に㉑を接着します。

(3) 機首部の組立



(下面側が上になっています)

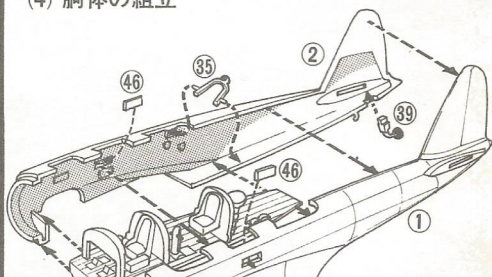
⑲に㉒をはめこみ接着します。

㉕を㉒にはめこみ接着します。

㉔に㉖、㉗をさしこみ接着します。

㉘を㉒の取付け溝に接着します。

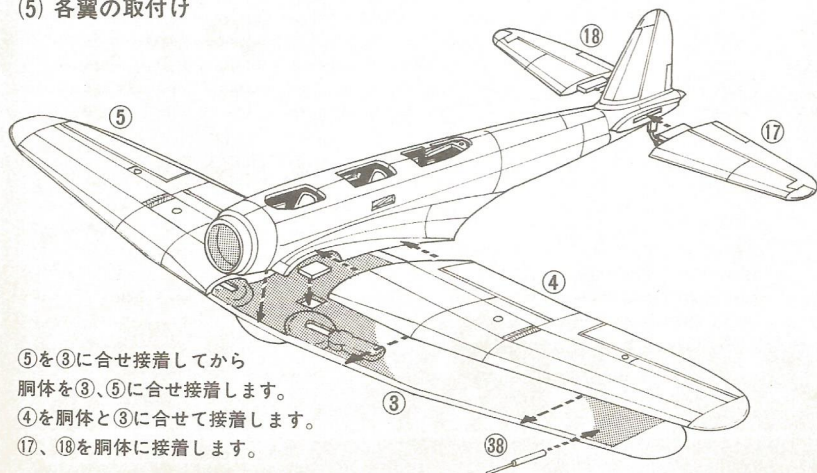
(4) 胴体の組立



㉘を①、②の窓にはめこみ接着します。

㉙を取付け穴にセットしてから⑥を中に入れて①、⑥、②と接着します。㉚をはめこみ接着します。

(5) 各翼の取付け



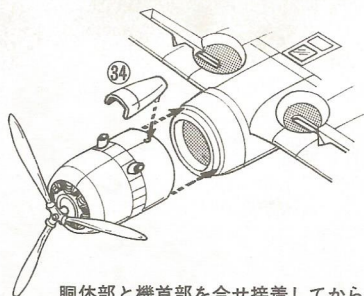
⑤を③に合せ接着してから

胴体を③、⑤に合せ接着します。

④を胴体と③に合せて接着します。

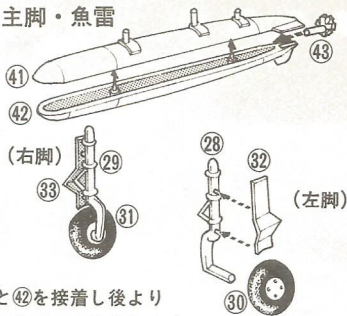
⑦、⑧を胴体に接着します。

(6) 機首部の取付け



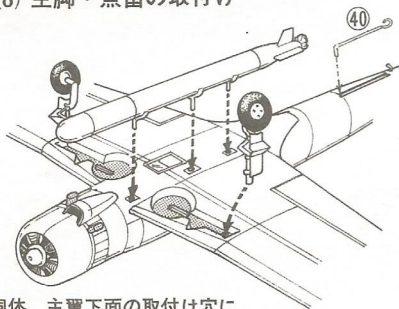
胴体部と機首部を合せ接着してから
②④を接着します。

(7) 主脚・魚雷



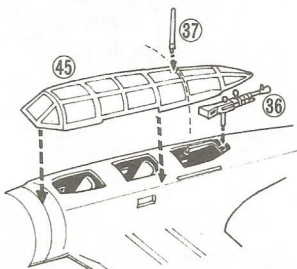
④①と④②を接着し後より
④③をはめこみ接着します。
②⑧に③⑩をさしこみ接着し、②⑧に合せ③②を接着し
ます。

(8) 主脚・魚雷の取付け



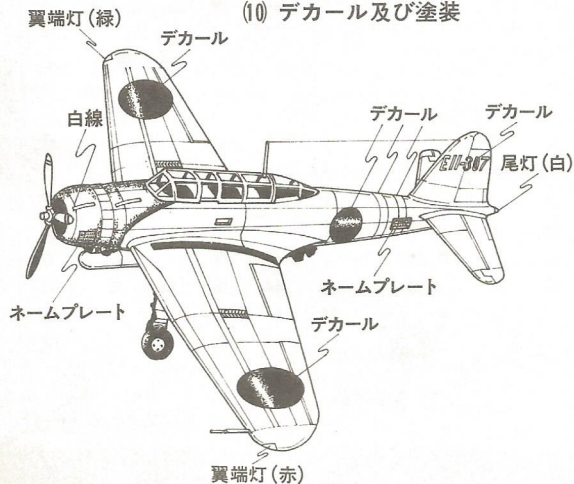
胴体、主翼下面の取付け穴に
それぞれさしこみ接着します。
④①を取付ける場合は胴体モールドのフック先を取ります。
④④は胴体に溝をほり埋めこむようにして接着します。

(9) 風防・機銃の取付け



③⑥を装備する場合は④⑤の後方(点線部分)の内側より
ナイフを入れると切り離せますから、加工して
から③⑥を④④の穴にはめこみます。切り取った部分
は中央部に後を上げてはめこみます。

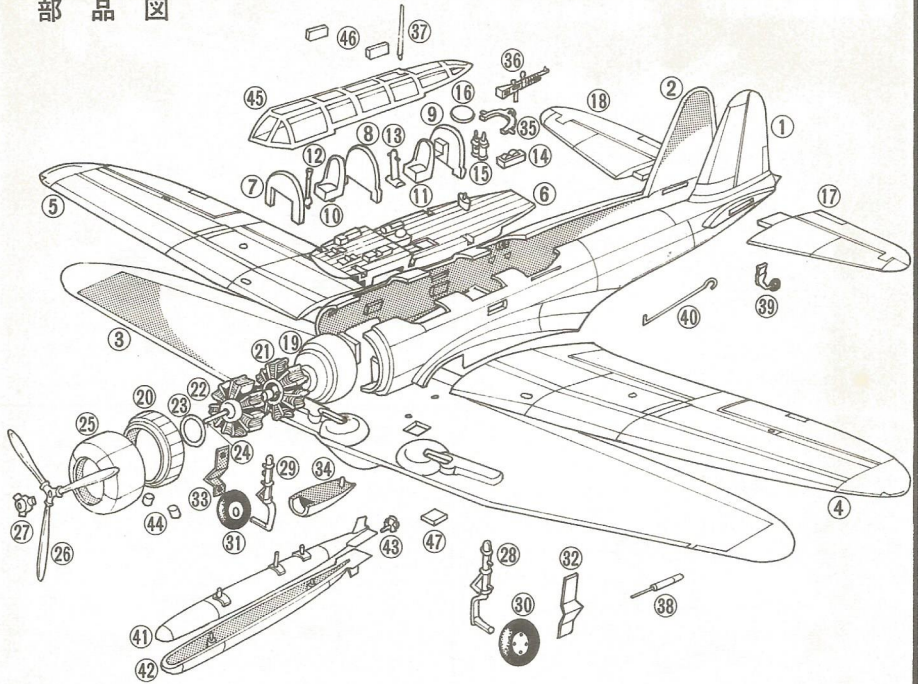
(10) デカール及び塗装



「塗装について」

外型塗装は原色図を参考にして下さい。他に昭和16年初め頃には銀色の機体に垂直、水平尾翼が赤の戦前の海軍標準塗装機もありました。プロペラは前面銀(先端に赤線2本入り)後面黒又は焦茶、後期は前後面共焦茶(黄線1本入り)です。脚柱は黒鉄色と銀。コックピット内の床板はグレー。他は機内色(青銀色)です。尚97艦攻、99艦爆など復座以上の機体には水平尾翼上面に5度づつ開いた偏流測定線(赤色尾翼、暗緑色の機体には白線、銀、明灰色では赤線)が片翼に4本、計8本入っております。

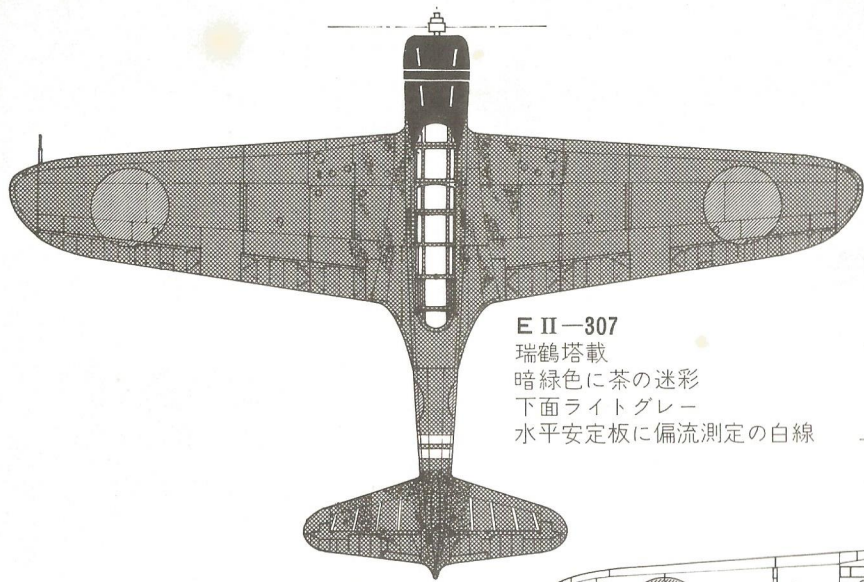
部 品 図



部 品 表

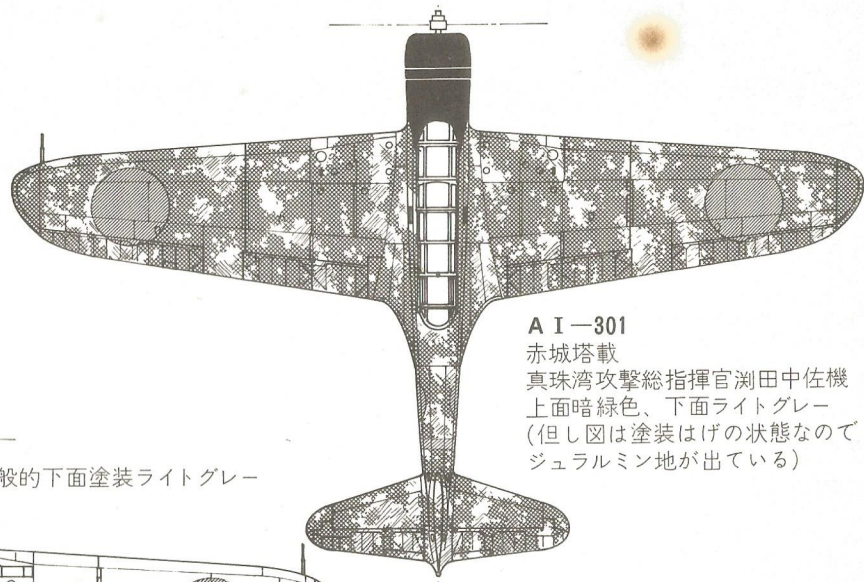
1	胴 体	左	16	後 部 座 席	33	右 主 脚 カバ	一
2	"	右	17	水 平 尾 翼	34	滑 油 冷 却	器
3	主 翼	下	18	" "	35	機 銃	座
4	"	左上	19	胴 体 前 部	36	7.7 mm 機	銃
5	"	右上	20	カウルフラップ	37	ア ン テ ナ	柱
6	床 部	計 器 盤	21	エ ン ジ ン 後 部	38	ピ ッ ト	一
7	前 部	計 器 盤	22	" " 前 部	39	尾	輪
8	中 央	仕 切 盤	23	潤 滑 油 リ ン グ	40	着 艦 フ ッ ク	部
9	後 部	"	24	プ ロ ペ ラ シ ャ フ ト	41	魚 雷	上
10	前 部	座 席	25	カ ウ リ ン グ	42	"	下
11	中 央	"	26	プ ロ ペ ラ	43	推 進	器
12	操 縦	桿	27	調 速 器	44	排 気 管 (2コ)	
13	爆 撃 照 準	器	28	左 主 脚 柱	45	風 防	窓
14	彈 倉	箱	29	右 " "	46	側 方	窓
15	酸 素 ポ ン	ベ	30	主 車 輪	47	下 面	窓
			31	" "	48	デ カ	一
			32	左 主 脚 カバ			ル

Hammy



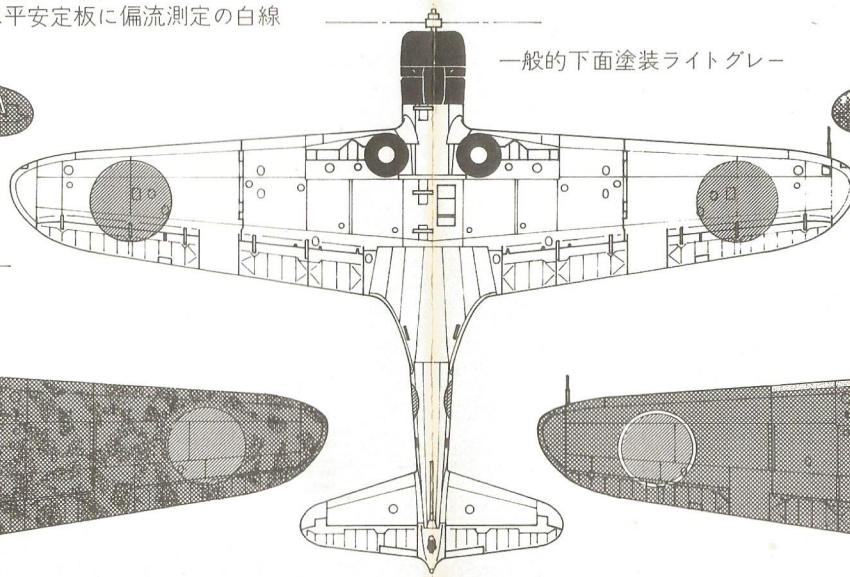
E II-307

瑞鶴搭載
 暗緑色に茶の迷彩
 下面ライトグレー
 水平安定板に偏流測定用の白線

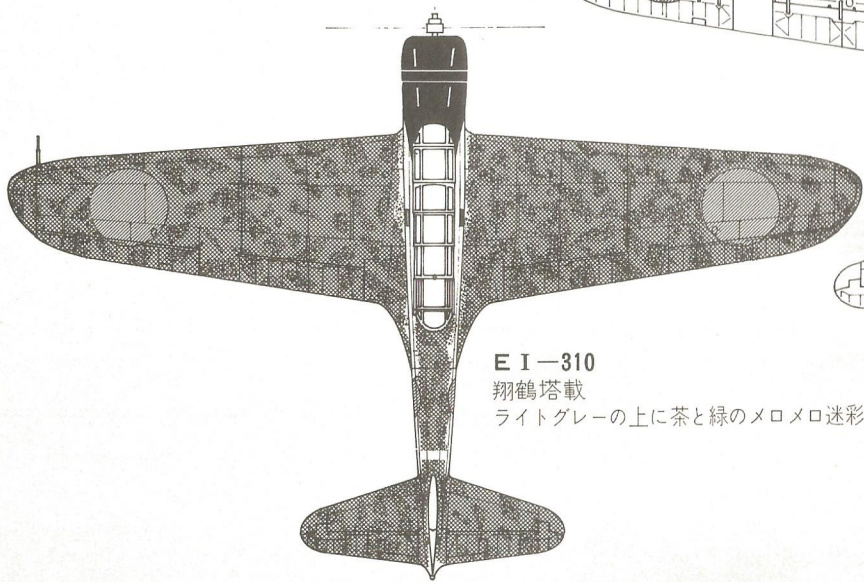


A I-301

赤城搭載
 真珠湾攻撃総指揮官瀧田中佐機
 上面暗緑色、下面ライトグレー
 (但し図は塗装はげの状態なので
 ジュラルミン地が出ている)

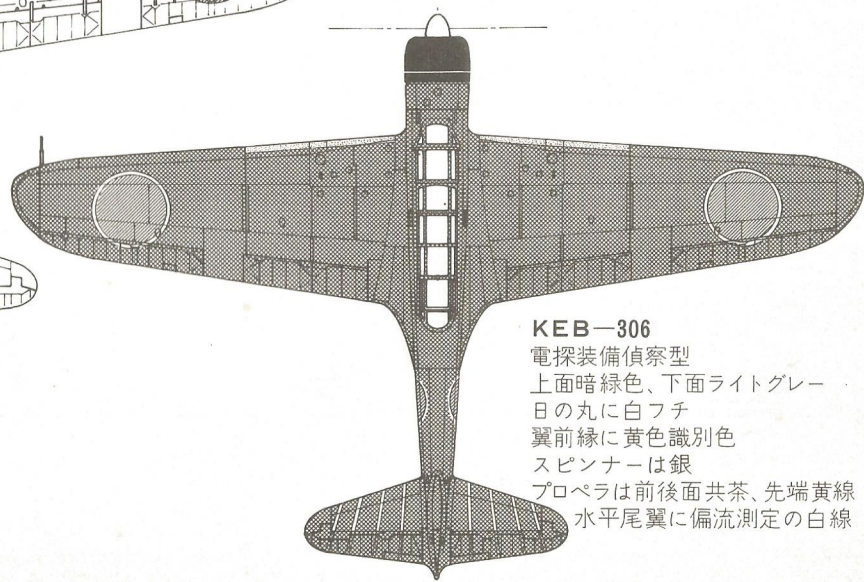


一般的下面塗装ライトグレー



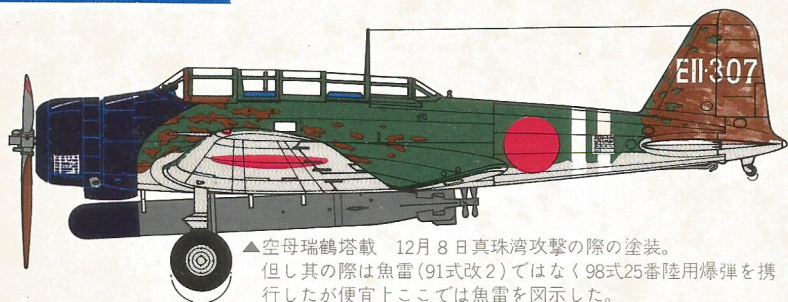
E I-310

翔鶴搭載
 ライトグレーの上に茶と緑のメロメロ迷彩

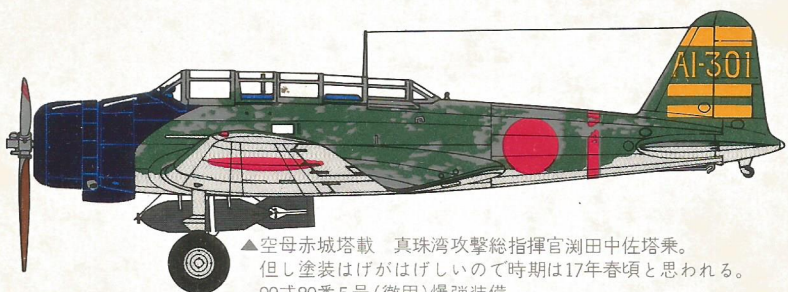


KEB-306

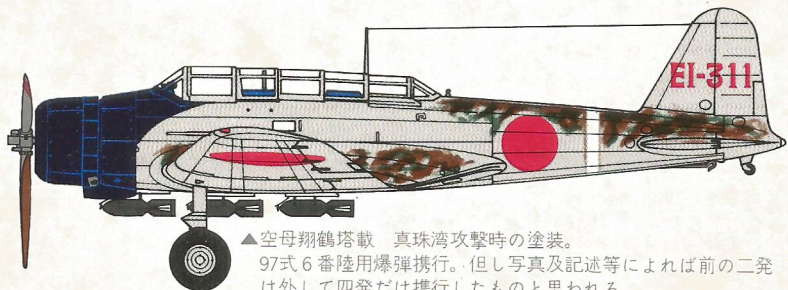
電探装備偵察型
 上面暗緑色、下面ライトグレー
 日の丸に白フチ
 翼前縁に黄色識別色
 スピナーは銀
 プロペラは前後面共茶、先端黄線
 水平尾翼に偏流測定用の白線



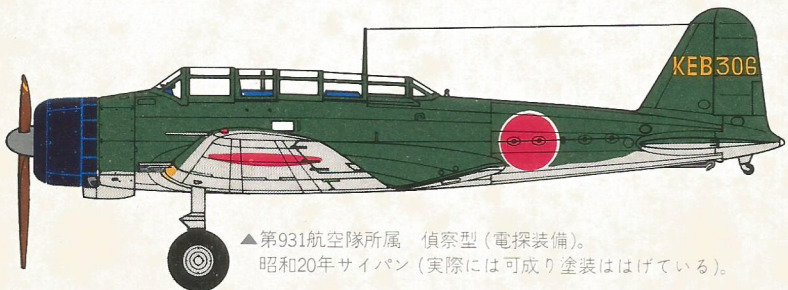
▲空母瑞鶴搭載 12月8日真珠湾攻撃の際の塗装。
但し其の際は魚雷(91式改2)ではなく98式25番陸用爆弾を携
行したが便宜上ここでは魚雷を図示した。



▲空母赤城搭載 真珠湾攻撃総指揮官瀧田中佐塔乗。
但し塗装はげがはげしいので時期は17年春頃と思われる。
99式80番5号(徹甲)爆弾装備。



▲空母翔鶴搭載 真珠湾攻撃時の塗装。
97式6番陸用爆弾携行。但し写真及記述等によれば前の二発
は外して四発だけ携行したものとされる。



▲第931航空隊所属 偵察型(電探装備)。
昭和20年サイパン(実際には可成り塗装ははげている)。

アンケートにお答えして

皆様から多くのアンケートを頂きましたが、その中で特に多かった3つの事項につきお答え致します。

(1) 値段が高すぎる

「マニア社の製品は値段が高すぎる、もっと安くしてくれ」と云う声はかなり有りました。

この件については、一般的に見た場合たしかに高すぎるでしょう。しかしマニアの方が希望される機種を他のメーカーがなぜ造らないか、お考えいただき度いと思います。現在一機製造する為の金型代は200万円を越す事が多く、これを消却するには何万ケも売らなければなりません。有名機を造ればそれも可能でしょう。しかしマニアの方が望まれる機種はいくら量産しても売れる数は限られており、もし量産すれば現状では在庫を残すのみとなり、次の作品すら造る事が出来なくなります。したがって在庫を残さぬ様、わづかしか生産出来ません。将来マニアの方が増え、マニア社の製品が確実に数万ケ売れる様になった時は、自然に売価も下がるようになるでしょう。現在の価格は製造原価に非常に高い金型消却費を見込んでいるからです。この様な高い価格で販売しても採算がとれない現状を見ても他のメーカーがマニアの方々の希望される機種を生産されない理由がおわかり頂けるものと思います。このことを御考慮の上、今後共御協力下さいます様お願い致します。

(2) 「ダボが無くて組立てにくい」

マニア社では外形のプロポーションを第一に考え製造する様にしております。マニア社の製品をお求め下さる方々は初心者ではないと云う前提で企画しております関係上多少組立てにくい所があっても、表面にヒズミが生じる様な個所(翼や胴体)にはダボをつけない事にしております。又車輪をまわる様にとの御希望もありましたが、スパットの場合等はプロポーションを忠実にするとプラスチックでは肉厚の関係上回転させることは不可能になります。(1/8以上の大きさなら可能ですが)

(3) 人形について

人形は一般のメーカーでも付録的な考えが有ります。これは本格的に人形に取り組むと莫大な資金がかかり、皆様が考えられている様な簡単なものではありません。マニア社がやる以上は、本格的な物とを考え、単なるお添えものの人形は入れない事に致しました。他社とのかねあいもあり現在はいくわしい発表が出来ませんが、近い将来すばらしい商品をお届けする事が出来るものと思います。御期待下さい。